

# 快樂の通勤快速

著  
蜜月 滯

人妻・真由美の

二十日間痴漢日記



# 快樂の通姦快速

＼人妻・真由美の二十日間痴漢日記＼

著・蜜月  
澪

## 目次

4月3日(月)：第1日目「はじまりの硬度」	5
4月4日(火)：第2日目「掌の侵略」	6
4月5日(水)：第3日目「境界線の消失」	8
4月6日(木)：第4日目「死角の愛撫」	10
4月7日(金)：第5日目「胸の陥落」	12
土曜日・日曜日：孤独の渴き	13
4月10日(月)：第6日目「渴望の再会」	14
4月11日(火)：第7日目「虚無の愛撫」	16
4月12日(水)：第8日目「シヨーツの縁、指先の焦燥」	18
4月13日(木)：第9日目「誘惑の転換、導かれる指先」	20
4月14日(金)：第10日目「公衆の絶頂、沈黙の噴火」	22
4月15日(土)：良妻の仮面	24
4月16日(日)：深夜の懺悔と渴望	25
4月17日(月)：第11日目「侵入の聖域」	26
4月18日(火)：第12日目「二本の蹂躪、誘いの破片」	28
4月19日(水)：第13日目「個室の審判、繋がる絶望」	29

4月20日(木)：第14日目「残穢の渴望、指先の代償」 31

4月21日(金)：第15日目「前夜の供物、三本の境界線」 33

4月22日(土)：ホテルの楽園 35

4月23日(日)：廃人の朝、終わらない呪縛 37

4月24日(月)：第21日目「衝撃の終焉、剥がされた仮面」 38

## 4月3日(月)・第1日目「はじまりの硬度」

午前8時55分。真由美は、いつものように西京線の急行電車に乗り込んだ。結婚して9年。38歳になった彼女の日常は、穏やかだが、どこか色の抜けた写真のように退屈だった。夫との生活に不満はない。けれど、夜の営みは月一回の義務作業のようで、心が昂ることはもう久しくなかった。

「……はあ、今日も座れない」

車内は、週明けの気だるさと、他人の体温が混ざり合った独特の熱気に包まれている。真由美は人混みに押し流されるようにして、車両の連結部、ドア横の隅っこに追い込まれた。目の前には他人の背中。背後には、誰かの胸板。文字通り、逃げ場のない「密室」だ。

ガタン、と大きく電車が揺れた。その瞬間、真由美のタイトスカートを穿いたお尻に、ハッキリとした「異物」が突き当たった。

(……えっ?)

それは、偶然の接触にしてはあまりにも硬く、そして「意思」を持っているかのように熱かった。真由美の背後に立つ男の股間。そこにある「雄」の象徴が、薄い布地越しに、真由美のお尻の割れ目を正確に捉え、グリグリと、肉の柔らかさを確かめるように押し付けられてくる。

「……っ、ん……」

中略

男の股間が、揺れに合わせて執拗にお尻を叩く。「ドクン、ドクン」という男の鼓動が、スカート越しに直接伝わってくる。真由美は、つり革を握る手に力を込めた。顔は窓の外を向いたまま。けれど、全神経は、お尻の割れ目に食い込む「熱い塊」に集中していた。

(だめ、こんなの……。誰か、助けて……)

心の中で呟く言葉とは裏腹に、真由美の秘部は、自分でも信じられないほど微かに、けれど確実に疼き始めていた。「時間の通勤時間。その最初の5分で、真由美は「人妻」という殻を、名もなき男の「硬度」によって、無残に、そして甘美にひび割れさせられたのだ。

## 4月5日（水）：第3日目「境界線の消失」

中略

「……っ、ん……あ、っ……」

男の指先が、スカートの裾から、滑り込むように内側へと侵入した。ストッキングに包まれた、真由美の太もも。男の指は、その滑らかな曲線をなぞりながら、ゆつくりと、執拗に、太ももの内側……最も柔らかく、敏感な場所へと這い上がってくる。

（……だめ、そこは……っ！ 人に見えちゃう……っ！！）

真由美は必死に周囲を伺った。サラリーマンが新聞を読み、女子高生がスマホをいじっている。誰も、自分のスカートの中に、見知らぬ男の指が潜り込み、ストッキングのナイロンをガリガリと音を立てるようにして、内股を弄り回しているなんて気づいていない。

男の指は、ストッキングのガーターライン……太ももの付け根の、わずかに露出した素肌の境界線にまで到達した。そこは、歩くたびに擦れ合う、真由美の秘部に最も近い場所だ。男の指先が、その柔らかな皮膚を、爪を立てるようにしてカリカリと掻き上げる。

「……は、あ……ん、んっ……！！！」

真由美はつり革を握り締め、背中を反らせた。男の掌が、今度は太ももの肉をギュッと掴み、自分の股間の方へと引き寄せた。密着。真由美のお尻の割れ目に、男の怒張した『剛軀』が、布一枚を隔てて、逃げ場のない力で押し付けられる。

中略

## 4月12日（水）：第8日目「ショーツの縁、指先の焦燥」

中略

男の大きな掌が、真由美の腰をガツシリと捕らえた。逃がさないという強い意志。そして、男の指先が、スカートの裾を割り込み、ストッキングのナイロンをガリガリと鳴らしながら、太ももの最奥へと這い上がってきた。

真由美は、つり革を握る手に爪を立て、目を閉じた。…………くる。…………くるわ。…………あの指が、私を………っ！)

だが、男の指先は、ショーツのクロッチ（股布）の、ほんの数ミリ手前で動きを止めた。そこから先、生身の粘膜へは決して踏み込まない。代わりに、男は中指の先で、ショーツの縁（ふち）…………太ももの付け根のゴムのラインを、執拗に、ゆっくりとなぞり始めた。

「……あ、っ…………！そこ、じゃ、なくて…………っ！！」

声にならない悲鳴が、喉の奥で潰れる。

続きは本編でお楽しみください。

【背徳文庫】「密約の小部屋」著・蜜月 濤（睦月 濤）

1. 嫌いな上司と出張先で・・・新婚妻の背徳と溶ける体
2. 海斗くんパパに抱かれた夜から
3. 隣妻たちの蜜約く四人で堕ちた、甘い罪く
4. 逆転の密室く冷たかった彼が溶ける夜く
5. 人妻上司との秘めごと…深夜のオフィスで重なった、禁断の指先
6. 隣人妻が夜這いしてきた背徳の夜
7. 通夜の雨に濡れた未亡人の白い肌
8. 義父の獣欲 夫との電話中に後ろから義父に突かれる三十路妻
9. 主治医に開発された人妻 診察室の奥で交わされる、渴望と禁断の処方箋
10. ベランダ越しの秘め事 隣の部屋の独身男に、毎夜「調教」される私
11. カーテンの隙間、覗かれた自慰妻 隣人の冷徹な視線に調教され濡れる夜
12. 背徳の良妻私だけの課外診療 覗き見る夫と三十路妻の罪悪感
13. 義実家で堕ちる処女新妻 夫を愛しながら義父と義弟に奪われる蕾
14. 妊活主婦が年下作家に堕ちる図書館の密事
15. 自慰行為に耽る三十路妻 覗き見され濡れる痴態
16. 禁断の熟れた果実 同級生の母という名の深淵
17. 復讐の甘い調教 元いじめっ子3人から、すべてを奪う私の計画

18. 義父に寝取られた私 復讐のはずが、恋に落ちて
19. 穢される処女聖域 義兄の執着と抗えぬ妹の情欲。両親のいない七日間、堕ちていく二人
20. 快楽の通姦快速…人妻・真由美の二十日間痴漢日記
21. 妹の旦那に夜這いするバツイチ義姉
22. 息子の担任が思い出させてくれた女の悦び
23. 保護者を待ちわびる渴いた女教師
24. 『背徳の家族会議』夫との通話中に後ろから義父に突かれる若妻
25. 限界集落の生贄嫁―泥に汚れた白無垢【一卷】～【十巻】